

紀伊半島南部に広がり、太古より「神々の宿る地」といわれた「熊野」は、今も神秘に満ちた蘇りの地である。滝や巨石、大木といったそれぞれ異なる自然崇拜を起源とする熊野三山を指し、上皇や法皇をはじめ貴族や武士、庶民までもが詣でるようになり、その様子は「蟻の熊野詣」と称されるほどであった。現在「熊野古道」と呼ばれているその参詣道は、京の都より三千六百峰といわれる険しい山々を越えなければならぬ修行の行程でもあった。神々しい大樹に覆われた熊野は、神と仏が習合し、真言密教や修験道、さらには浄土信仰さえもが混在する、世にも稀な聖域である。

熊野三山の一つである熊野那智大社の社有地・那智原始林は、古より枯れることなく流れ続ける「那智の滝」の源流であり、許可なく立ち入ることできない、俗界と隔たれた特別な聖域である。拜殿で正式参拝を済ませしばらく歩くと、「二の杉」が出迎える。樹齢千年ともいわれるその大杉は、まるで巨大な森の番人のように、根や枝を大きく広げ、今にも歩き出しそうに見える。一般的に「那智の滝」と呼ばれるのが一の滝で、上流にある二の滝、三の滝を総称して那智大滝と呼びます。大雨などでその姿が変わってしまうこ

ともありますが、それも自然だということとです。私たちガイドは、あるべき姿を自分たちで変えてしまわないように、那智勝浦町の企業やボランティアさんたちと協力し、保全活動も行なっています」と、静かに森を見つめながら語るのは熊野那智

ガイドの会会長の山東健さん。優しさで力強さ。生と死、動と静。そして過去から未来へと流れる時間の中で、不変なものはない。ただそんな中でも神々の宿る熊野のあるべき姿は変わらない。

## 森厳な聖域の中、 神々の優しさと 力強さに触れる



①古式ゆかしい雰囲気熊野本宮大社。②朱塗りの拜殿が目にも鮮やかな熊野速玉大社。③那智山中腹に建つ熊野那智大社。④西国三十三所第一番札所としても有名な那智山青岸渡寺。三大社と那智山青岸渡寺の三社一寺を合わせて熊野三山と呼ぶ。



熊野古道にひっそりと佇む高さわずか50cmの牛馬童子像 (左側)。花山法皇の旅姿を模しているといわれている。(田辺市中辺路町近露の山中)

# 変わらない 熊野

那智原始林の「中洲」と呼ばれる場所。清らかな水の流れと生命力溢れる緑が神々しい。